

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

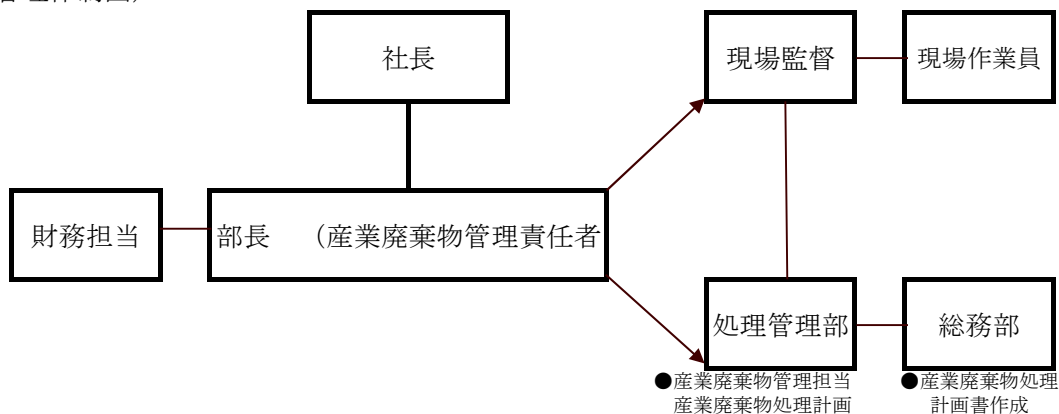
（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
2024年5月30日	
静岡県知事	
殿	
提出者	
住所	静岡県富士市今宮488-2
氏名	株式会社 佐野総業
	代表取締役 佐野徳人
電話番号	0545-23-0210
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 佐野総業
事業場の所在地	静岡県富士市今宮488-2
計画期間	2024年4月1日～2025年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	0796 解体工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 14億
③ 従業員数	52人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙2-1のとおり

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1-1のとおり	-
	排出量	別紙1-1のとおり t	49,531 t
	(これまでに実施した取組) 廃棄物分別を徹底し、再資源化を意識し従業員全員が処分場の情報を共有する事でより一層の再資源化に取り組む事ができている。 弊社中間処理場も優良となったので処理センター責任者への教育を徹底している		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1-1のとおり	-
	排出量	別紙1-1のとおり t	26,860 t
	(今後実施する予定の取組) 廃プラスチック類、コンクリートくずの再資源化をより具体的に今後は話し合い取り組んでいく		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現場責任者・自社中間処理センター責任者が産業廃棄物の分別を徹底して確認 焼却・破碎・有価とを分けて再資源化を現場へと指導している
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類の再資源化を行い出来るだけ埋立にならないように 努力する

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組) これまで再生利用実施なし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も予定なし	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t
(これまでに実施した取組) これまで熱回収の実施なし		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t
(今後実施する予定の取組) 今後も予定なし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 予定なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1-2のとおり	
	全処理委託量	49,531 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	19298 t	t
	再生利用業者への処理委託量	40073 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	- t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	- t	t
	(これまでに実施した取組) 率先して再利用業者への搬入を社内で徹底し取り組んだ		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1-2のとおり	-
	全処理委託量	26860 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	37681 t	t
	再生利用業者への処理委託量	32980 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	- t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	- t	t
	(今後実施する予定の取組) 今年度も社員全員と弊社中間処理センター責任者として廃棄物再資源化について話し合い目標の達成を目指していこうと思う。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1-1

(2022年度)実績

①現状

廃棄物種類	排出量 (t)
木くず	1291
紙くず	381
繊維くず	215
廃プラスチック類	1200
がれき類	3336
ガラス・陶磁器くず	1310
廃石膏ボード	1216
管理型混合廃棄物	-
安定型混合廃棄物	298.1
蛍光灯	0.22
CO・ASガラ	51659
石綿含有物廃棄物	314
合計	61220.32

別紙1-1

(2022年度)

②目標

廃棄物種類	排出量 (t)
木くず	12000
紙くず	400
繊維くず	200
廃プラスチック類	1200
がれき類	3000
ガラス・陶磁器くず	1000
廃石膏ボード	1200
管理型混合廃棄物	100
安定型混合廃棄物	300
蛍光灯	0.1
CO・ASガラ	30000
石綿含有物廃棄物	300
合計	49700.1

別紙1-2

(2023)年度実績

①現状

廃棄物種類	全処理委託量 (t)	優良認定業者	再利用業者処理委託
木くず	10447	10447	10447
紙くず	129	129	
繊維くず	71	71	8.7
廃プラスチック類	615	615	-
がれき類	6655	6655	-
ガラス・陶磁器くず	1253	1253	-
廃石膏ボード	626	626	-
管理型混合廃棄物	68	68	-
安定型混合廃棄物	48	48	-
蛍光灯	0.2	-	0.22
CO・ASガラ	29618	1527	29618
石綿含有産業廃棄物	1.4	5.9	-
合計	49531.6	19912	40073.92

(2023)年度

②目標

廃棄物種類	全処理委託量 (t)	優良認定業者	再利用業者処理委託
木くず	10000	9800	9800
紙くず	100	100	100
繊維くず	200	100	100
廃プラスチック類	600	600	600
がれき類	6000	6000	2000
ガラス・陶磁器くず	1000	500	200
廃石膏ボード	600	500	100
管理型混合廃棄物	60	50	50
安定型混合廃棄物	40	30	30
蛍光灯	0.1	0	0.1
CO・ASガラ	250000	20000	20000
石綿含有物廃棄物	1	1	-
合計	268601.1	37681	32980.1

